

医療のグローバルと ローカルを考える 医療人類学の視点から

2025年12月6日（土）

10:00-12:00

札幌医科大学 教育研究棟C203教室



西 真如（広島大学）

ウガンダ北部のうなづき症候群

ー紛争後の環境におけるてんかん性脳症の流行ー



モハーチ ゲルゲイ（大阪大学）

植物とともに治す

ーベトナム北部の薬草園にみる治療と再生ー

今日の医療を語る上で医療のグローバルな状況は無視できないものとなっています。グローバルな人や物の流れは、病気の流行や、医薬品、医療技術、診断法、政策などにどのような影響を与えているのでしょうか。本講座では、アフリカ・アジアで長年現地調査をされてきた医療人類学者の先生をお招きし、医療がどのように巡り、つながっているのか、またそれらがローカルな文脈ではどのように受け止められているのかについてお話いただきます。

参加費
無料



参加登録はこちら

※事前登録なしでも
当日参加可能です

《講師について》

西 真如

専門は医療人類学。世界の様々な場所で暮らす人々の病の経験に関心を持つ。これまでにエチオピアのHIV感染症、大阪市西成区の単身高齢者の看取り、新型コロナウイルス感染症流行下の発達障害ケアといったテーマに取り組んできた。またその過程で、人間だけではない生物やモノを含むケアの倫理と実践に関心を持つようになった。共編著書に、西真如・有井晴香・森明子編『心配と係り合いの人類学——この世界を繕い直すためのケアの理論と実践』（ナカニシヤ出版、2025年）など。

モハーチ ゲルゲイ

専門は医療人類学および科学技術社会論。日本を主なフィールドとし、病気をめぐる文化、身体感覚、医療技術との相互作用を探究している。近年は、薬用植物の栽培や研究開発に焦点を当てつつ、薬剤耐性をめぐる諸課題を民族誌的視点から問い直そうとしている。主な近刊に “How to Survive Medicine in the Anthropocene?” (In Southern Anthropocenes, Routledge, 2025) など。

お問い合わせ先

桜木真理子（札幌医科大学医療人育成センター）

Mail: marikosakuragi@sapmed.ac.jp